

## 2020 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

- 提出日 : 2022 年 11 月 24 日 (2022 年 4 月～2022 年 9 月)
- 事業名 : 甲信地域支援と地域資源連携事業
- 資金分配団体 : 認定特定非営利活動法人富士山クラブ (甲信地域休眠預金等活用コンソーシアム)

### ① 実績値

#### 【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
地域資源を活用したプログラムやソーシャルビジネスを生むラボとなる、こども若者の居場所、コミュニティ、地域住民が一緒に地域づくりを行える場を整備する。	①活動で生まれた居場所・コミュニティの数 ②居場所・コミュニティへの関わり人数（運営・参加・協力） ③実行団体の活動事例数、プログラム実行数	①5 以上 ②100 人以上 ③20 以上	2024 年	①3 ②2,000 人（累計） ③29（累計）	2

<p>地域の人々がつながる、多様な機関や団体が結びつくネットワークづくりの促進。</p>	<p>①活動で生まれたネットワークの数 ②ネットワークへの関わり人数（運営・参加・協力） ③参加者の意識の変化（理解度、必要度、信頼関係の変化）</p>	<p>①5以上 ②100人以上 ③ネットワークへの積極的な参加や働きかけがなされている。</p>	<p>2024年</p>	<p>①1 ②20 ③自団体の活動を通じて、その地域の共通の課題解決をめざす市民団体、地元企業、行政への働きかけが行われている。他団体と組んだ連携・協働活動の実施により、関係性を深めている。</p>	<p>2</p>
--	--	--	--------------	---	----------

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
<p>実行団体が組織基盤、財政基盤を強化するためのノウハウやスキルを習得できる機会を提供。</p>	<p>①研修会・ワークショップの実施回数 ②必要に応じた専門家への紹介回数 ③新たな資金調達の見直し・取り組み回数 ④事業設計の改善に向けた検討・助言 MTG の回数 ⑤進捗管理のための定期的な面談回数</p>	<p>①年 2 回以上 ②専門家の助言、支援によって組織基盤が強化している ③3 年を通じて、各団体 1 件以上の財政基盤強化の活動実施 ④各団体年 2 回以上 ⑤各団体月 1 回以上</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<p>事業改善、組織基盤改善のため、専門家による指導、評価アドバイザーによる研修会、PO の定期的な対面による相談、伴走支援を通じて改善がすすんでいる。 ①4 回（累計） ②2 回 ③0 回 ④18 回（累計） ⑤各団体で必要に応じ毎月 1 回以上実施</p>	<p>2</p>
<p>地域の多様な機関や団体がコミュニケーションをとれる場や機会をつくり、地域連携協働体制づくりを促進。</p>	<p>①連携したステークホルダー数 ②情報共有や意見交換の実施・参加回数 ③連携に向けたフォーラムな</p>	<p>①20 人（団体）以上 ②年 1 回以上 ③地域連携協働への理解、協力、支援が増加 ④地域連携体制づくりが</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<p>①各団体で 15 団体（人）以上 ②4 回（累計） ③1 回（累計） ④1 回（累計）</p>	<p>2</p>

	どの開催数 ④資金分配団体のコーディネート、働きかけによる地域連携に向けた対話や交流機会数	進む			
--	--	----	--	--	--

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
感染拡大防止対策をとりながらも、県や国のガイドラインを参考に、対面での伴走支援を増やし、現場での相談、助言、意見交換を行っている。
6. 実行団体の進捗に関する報告
山梨3団体については、スペースふうとポンドプレイスについては、概ね計画通り活動が進んでいる。河原部社については、拠点整備については、原材料の高騰や諸事情による材料入手等の遅れから、契約、施工の遅れが生じ、全体スケジュールが6か月ほどの遅れとなったが、プロジェクト運営体制を改善し、活動の巻き返しを図っている。 長野2団体は、実施事業、イベント、連携等が順調に進んでいる。(若干、上田の総務事務能力に心配が残るが、経理が育ってきている。)

③ 広報（※任意）（22年4月～9月）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

JANPIA 広報（WEB）

実行団体のメディア掲載

こどもの未来をかنگえる会 信濃毎日新聞、長野日報

信州上田里山文化推進協会 上田ケーブルテレビ

スペースふう グローバルネット5月号、(山梨)ユニオン通信

2.広報制作物等

実行団体（22年4月～9月）

河原部社 TUM カード作成（拠点告知、TUM メイト募集）

こどもの未来をかنگえる会 やつリンク（アプリ）、チラシ、SNS(Facebook)等によるイベント活動報告

信州上田里山文化推進協会 YouTube チャンネル 活動動画アップ、SNS(Facebook)等によるイベント活動報告

3.報告書等

富士山クラブ年次報告書 2022

山梨県教育委員会への提言書（社会教育委員の会議提言書）

実行団体

スペースふう 年次報告書、SNS(Facebook)等によるイベント活動報告

河原部社 note、SNS(Facebook)等によるイベント活動報告

こどもの未来をかنگえる会 SNS(Facebook) 等によるイベント活動報告

bond place SNS(Facebook)等によるイベント活動報告

## 2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	山梨県・長野県活動 5 団体 全体統括	高橋 潤	長野県みらい基金 理事長
内部	長野県活動 2 団体	神田 一郎	長野県みらい基金 事務局長
内部	山梨県活動 3 団体	青木 直子	富士山クラブ PO
外部	評価アドバイス	清水 潤子	日本ファンドレイジング協会
外部	評価アドバイス	松島 拓	日本ファンドレイジング協会

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

##### 【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
居場所や多様なコミュニティが生まれ、若者たちが自ら運営、つながりを持っている。  (居場所・コミュニティ、地域の若者)	①活動で生まれた居場所・コミュニティにおける多様性の度合  ②実行団体（運営者）が、他者（団体）	①多様な居場所やコミュニティが運営されている。  ②積極的に地域でのつながりを生み出し、関係を深めて	2024 年	新たな拠点の整備のほか、若者や（新旧）住民が参加するコミュニティが生まれてきている。既存の拠点を活用し、他団体や行政と連携し、地域でつながりをつくる活動プログラムの実施、事業で育成した人材による新たな居場所やコミュニティづくりが進んでいる。各団体の特性、地域資源を生かし、地域への働きかけの工夫、居場所・コミュニティの運営体制、協働・協力体制の見直しや強化を行って

	<p>とつながら働きかけの度合</p> <p>③周辺の人々の居場所・コミュニティに対する認知度合</p>	<p>いる。</p> <p>③地域の認知、理解、支援が増加している。</p>	<p>いる。中間評価を機に後半の事業計画の改善、変更が見られる。</p> <p>河原部社（山梨県韮崎市） 若者プレーヤーズ拠点 TUM が 22 年 8 月にオープン、先行していたオンライン上でのコミュニティから、リアルで交流できる場ができ、地元を中心に現在、16 人の若者が拠点を利用。次のステップへの進路を確認。</p> <p>スペースふう（山梨県富士川町） 支援サービスを受けている産後ママ（のべ 45 世帯）、この活動に関わっている働きにくさを抱えた若者や女性（のべ 9 人）、活動そのものが支え合いのコミュニティとして機能している。SNS、対面での交流により信頼関係を構築、口コミや関係者を通じて、周囲への認知が向上。支え合いのコミュニティをモデルに昇華する段階であることを確認。</p> <p>bond place（山梨県南アルプス市） リンクワーカー育成講座「社会的処方」の学校」第 1 期生のうち、24 人が地域でつながる活動（自ら拠点を立ちあげる、アウトリーチ）を開始。第 2 期生の研修内容は、第一期を振り返る改善。第 1 期生の周辺ですでに活動フィールドや専門性をもった活動をしている若者をメンターゲット</p>
--	--	--	---

				<p>として育成。生み出した人材の継続的な活躍の場の創造が課題。</p> <p>こどもの未来をかんがえる会（八ヶ岳山麓食のまちづくりラボコンソーシアム）（長野県富士見市）  ラボと地域の団体、関係者が協働・連携し、居場所を活用し、こども・地域住民を対象にした交流活動の実施、地元高校でのアウトリーチ活動、「やつリンク」（アプリ）での地域団体・企業と住民をつなぐオンラインコミュニティを始動。地域の多様なステークホルダーのつながりが見えてきた。</p> <p>信州上田里山文化推進協会（長野県上田市）  地元住民、若者、移住者、ニ地域居住者の把握を行い、地域資源を活用、伝承する里山活動プログラムを定期的実施することで、参加者がフィールドでつながるコミュニティが生まれつつある。人々が集う「木の駅」拠点整備も予定。地域のステークホルダーとの接続が次の目標となる。</p>
若者、地域住民、移住者等が地域資源を発掘、再生し、多様な支えあうしくみが生ま	①発掘、再生された地域資源の数と活動へのその貢献（利用）度合	①発掘、再生された地域資源が実行団体の活動の成長・充実に生かされてい	2024年	地域資源を、人、自然、文化、知恵、地縁などの視点で、各団体でそれぞれ捉え、活動に取り入れ活用し始めている。団体によっては、まだ限定的で、十分活用できていないが、つながりや支え合いのしくみづくりを意識した活動



<p>れ、自立継続している。</p> <p>(発掘・再生された資源、それによって生まれた支え合うしくみ)</p>	<p>②支えあうしくみの数、しくみの状態</p> <p>③事業を推進する人材や組織の成長度合</p>	<p>る。</p> <p>②地域での支え合い、支援やサービスにつながる、多様なしくみが機能している。</p> <p>③生まれたしくみが自立継続できる運営・協力体制が整っている。</p>	<p>が進んでいる。人的資源、物的資源の活用、再生によって仕組みづくりが異なるが、それぞれの工夫された手法で展開されている。</p> <p>河原部社 拠点整備の遅れ、事務局のマンパワー不足があり、拠点を発信基地にした、若者プレーヤーが地域資源を活用し、多様なソーシャルビジネスを生み出すしくみを整え始めた。運営体制を実施に即した相互補完しあえる実働体制にして、事業計画の見直し・改善を実施。</p> <p>スペースふう 環境分野で体得したソリューションを利用し、福祉分野へ踏み込んだ活動であり、人材、制度、地域との関わりなど、接点がなかったからこそ、既存の認識に捉われず、地域資源を新たな視点で活用。事業の運営体制も刷新、担当者も事業に手ごたえを感じ、地域の団体、関係者への働きかけをすすめている。</p> <p>bond place すでに今までの団体活動を通じて、女性起業家支援や学習支援分野での人々と接点があり、この休職事業を通じて、介護、医療、福祉、まちづくりなど多様な分野の人材・フ</p>
--	--	--	--

				<p>ィールド（社会資源）の発掘につなげ、彼ら（リンクワーカー）の活動（実践現場）を通じて、多様な支え合いのしくみが生まれつつある。</p> <p>こどもの未来をかんがえる会 信州上田里山推進協会</p> <p>両団体とも、団体構成がコンソーシアム形態であり、多種多様な視点や経験を持つ地域の人々が運営、協力、参加する体制ができており、地域資源の掘り起こし、利用が進んでいる。</p>
<p>地域連携が根付き、若者が主体となったコンソーシアム形態での市民活動やソーシャルビジネスが始動している。</p> <p>（実行団体、コンソーシアムで地域活動に関わっている団体）</p>	<p>①今までつながっていなかった、従来ではつながることのなかったステークホルダーとの連携の発生度合</p> <p>②コンソーシアムにより着手されている活動やビジネスの数</p>	<p>①新たな地域課題解決のために、いまままでつながっていなかったステークホルダーとの連携が生まれている。</p> <p>②若者が主体の地域連携による活動が始まる、既存の活動が若者主体で発展している。10 活動</p>	2024 年	<p>人的連結、物的連結の先行する主体が異なるが、両方が融合していくプロセスを経て、協働、協業的な動きになってきている。</p> <p>山梨県 3 団体は、今までの NPO 活動でつながっているステークホルダーとの関係を深めるとともに、アウトカム達成に向けて、新たなステークホルダー、既存のアプローチからは見えないステークホルダーへのつながりを模索している。長野県 2 団体は、コンソーシアムによるパイロット事業が始まっている。</p> <p>スペースふう、bond place とも、それぞれの団体から従来</p>

		/事業以上		<p>つながっていなかった新たなステークホルダーへの働きかけ、地域でのつながりをつくり始め、関係を深める努力中。</p> <p>河原部社はそこに集う若者個々が、それぞれ関係が深いステークホルダーにつながっている状態で、今後 TUM を通じて、多様な人・地域とのつながりができ、その結果、事業化が見通せることができる人材育成、事業支援プログラムを実施する。</p> <p>こどもの未来をかんがえる会 信州上田里山推進協会</p> <p>両団体とも、地域の若者、移住者、団体、関係者らを徐々に巻き込みつつ、食にフォーカスしたパイロット事業、地域の農業・里山などの自然資源を活用し事業化を目指す人材育成講座・ワークショップの実施が順調にすすんでいる。</p>
地域内資源循環のしくみができ、持続可能な地域となるための、人材育成プログラムの実施や新たな雇用が生まれている。	<p>①新たに生まれた地域内資源循環のしくみの発生数</p> <p>②人材育成プログラムの内容、実施数</p>	<p>①地域資源を活用した資源循環のしくみができ機能している。</p> <p>各実行団体それぞれの地域資源循環</p>	2024年	<p>上記でも述べたが、資源循環における人的、物的資源において、実行団体それぞれのテーマ性からスタートし、循環させる、巻き込んでいく、ネット上でのアプリであったり、人的ネットワークであったり、賛同者の増加であったり、とエンジンが生まれてきている。</p> <p>山梨県三団体は、地域資源の限定的な活用にとどまってい</p>

<p>(地域社会)</p>	<p>③雇用創出数</p>	<p>事例が5以上実行されている。</p> <p>②多様な人材育成プロセスが可視化されている状態 10事例</p> <p>③雇用創出 20人以上</p>	<p>る。事業の進捗にともなって、地域内資源循環のしくみづくりを、先行団体の事例などで知見を得て、検討する。</p> <p>長野県二団体は、自然資源を商品化し、パイロット事業として販売を開始するなど、地域内経済循環の試みが始まっている。事業化につなげる人材育成プログラムの開催も進行中である。</p>
---------------	---------------	--	--

【非資金的支援】

主体の変化	指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<p>実行団体の事業が自律的に継続実施されている。</p> <p>実行団体の事業</p>	<p>事業の経営支援</p> <p>①アウトカム達成にむけたの事業設計の改善度合</p> <p>②事業継続に向けた自主事業開発、資金調達の状況</p>	<p>①事業が適切に実施され、その実施プロセスがアウトカムへ連動している状態。</p> <p>②自主事業、助成金・補助金獲得、寄付金調達の見込みがみえている状態。</p>	<p>2024年</p>	<p>事業改善においては、定時、随時、事業のふりかえりを行い、事業運営の微調整を図っている。中間評価時に限らず、事業改善を行っている。</p> <p>5団体とも、年に2回、評価アドバイザーによる集団研修を実施、ビデオで振り返り学習ができるようにすべての動画、資料は実行団体共通クラウドで提供している。加えて、担当PO、評価アドバイザーとの個別MTG（各団体評価報告作成時に、2～3回）を実施、その都度、ロジックモデル、TOCの見直し、事業設計の改善が行われた。</p> <p>資金調達については、JANPIAのファンドレイジング勉強会に資金分配団体、実行団体（一部）とも参加した。活動に関連した助成金「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」について、bond placeとスペースふうに案内、bond placeが助成金を得て、リンクワーカー講座1期生とともに、活動実施した。</p> <p>出口戦略の本格的検討に着手するにあたり、資金分配団体として研修の実施、実行団体との協働の資金調達取り組みなどを議論している。</p>

<p>実行団体の組織 基盤や財政基盤 が強化され、持 続可能な組織体 制になっている。  実行団体の組織</p>	<p>組織強化支援 ①事務局の総務・経理運 営体制の整備状況  ②規程類の整備状況  ③団体構成員の意識や行 動の変化  ④組織財政強化のための 具体的な資金調達を取り 組み状況</p>	<p>①組織基盤が整備さ れ、ガバナンスが強 化している。  ②規程が整い、コン プライアンスが順守 されている。  ③事業や団体運営に 対し、団体構成員が 能動的にコミットし ている。  ④安定した組織経営 ができる計画策定と 資金調達の取り組み が実行されている。</p>	<p>2024 年</p>	<p>概して組織基盤が脆弱であるが、総務経理はもとより、法 人格取得、新たな協カステークホルダーとの連携など、伴 走支援において環境整備に注力している。  ①実行団体の要請、資金分配団体の判断により、必要に応 じて、総務・経理事務、契約書等の書類の確認等の伴走支 援、専門家の紹介を実施している。  ②資金提供契約時から、規程類の整備をすすめ、JANPIA 要 請の規程については公開している。必要に応じて、規約類 の修正、追加について支援している。  ③スペースふう、河原部社については、円滑かつ積極的な 事業推進のため、団体内で運営体制を話し合い、事業責任 者、役割を明確にした。団体内の人材リソースの活用を検 討。  ④事業完了後の出口戦略にむけて、今後、研修会や勉強会 の計画的開催、専門家による支援・助言の機会提供を行う。</p>
--	---	--	---------------	--

<p>事業に多様なステークホルダーが参加し、地域連携協働体制づくりが進む。</p> <p>実行団体の連携力</p>	<p>連携体制の構築</p> <p>①今までつながっていなかった、従来ではつながることのなかったステークホルダーとの連携発生度合</p> <p>②甲信コンソが行った連携・協力のコーディネーション状況</p> <p>③地域連携協働体制づくりの環境整備状況</p>	<p>①各団体 30（人・団体）以上のステークホルダーとつながっている。</p> <p>②実行団体における連携体制の必要性の認知や理解が進み、関係者との連携、協力の動きが起こり始めている。</p> <p>③連携に向けたフォーラムなどが定期的で開催され、地域連携協働体制づくりが進む。</p>	<p>2024 年</p>	<p>各事業の想定ステークホルダー（ステークホルダーマップづくり）への実施支援に並行して、新たな彼らが想定外の支援者、協力者を提示、接合することで、アウトカムのより高い達成へ環境を作っている。</p> <p>①各団体で 22 年度 4 月、10 月にステークホルダーマップを作成、団体（の活動）に深く関与しているステークホルダーは最低 15 人を数える。今までつながっていなかったステークホルダー、戦略的につながっていくステークホルダーなど、各団体で想定、働きかけを行っている。</p> <p>②各団体からの相談や資金分配団体が必要と判断し、ステークホルダーとの関係性強化や、新たなステークホルダーへの働きかけの助言や紹介を実施、連携体制をつくる、広げる働きかけ、試みがなされている。</p> <p>③21 年 3 月に山梨県でフォーラムをハイブリッド開催、山梨県内を中心に、行政、シンクタンク、大学、専門家、市民団体が参加し、これをきっかけにした地域連携への必要性の認知、動きが起こ始めている。</p>
---	--	---	---------------	--

<p>知見や情報の共有、人材のマッチングなどの場が生まれている。</p> <p>実行団体の知見や情報共有が進む環境整備</p>	<p>知見や情報の共有</p> <p>①各団体の広報・発信媒体の多様化・充実度合い</p> <p>②実行団体同士で困ったときに相談や協力できるしくみの有無</p> <p>③コンソがコーディネーターとしてつながった関係団体間の情報共有システムの定着度</p>	<p>①情報発信が定期的に行われている。</p> <p>②実行団体間で連携・協働の動きが起きている。</p> <p>③情報プラットフォーム機能が生まれる。</p>	<p>2024年</p>	<p>告知支援、連携支援に加え、事業遂行に必要な知見の紹介、人材の接続を行っている。</p> <p>①各団体とも、団体広報誌、WEBサイト、SNSで定期的に広報している。実行団体、資金分配団体を通じて、マスコミへの情報提供により、メディアにも休眠預金事業の活動として、取り上げられる回数が増えている。</p> <p>②団体相互の交流・訪問、それぞれの活動へのオブザーバー参加、ステークホルダーマップや報告書の共有、POを通じた活動事例共有が行われている。</p> <p>③立ち上げに向けて、実行団体、関係団体へのヒアリングを開始、具体的検討を行う。</p>
---	--	---	--------------	--



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>若者が主体的となった居場所や多様なコミュニティの運営が始まっているか</p>	<p>居場所、コミュニティは生まれつつある。</p>	<p>拠点やコミュニティは生まれつつあることを、実行団体の活動観察、ヒアリング、中間報告書から確認できている。</p>



<p>地域資源を活用して、多様な支え合いのしくみづくりが始まっているか</p>	<p>始まっている。</p>	<p>各団体で、いまだ限定的ではある場合があるものの、人、自然、文化、知恵、地縁などの視点で、地域資源の（再）発見、認知、再生活用（案）まではとらえている。すでに十分活用し、地域での支え合いのしくみづくりに進んでいる事例も、活動参加、ヒアリング、中間報告書から確認できている。</p>
<p>連携協力できるステークホルダーとつながり、地域連携のきざし、働きかけがみえるか</p>	<p>その兆しはみえている。働きかけは行われている。</p>	<p>地域課題の解決にむけて、いままでつながっていなかったステークホルダーや、戦略的につながるステークホルダーと組むことで、あらたなしくみ、手法による課題解決へチャレンジしている団体もある。どのような関係性をもつか、深めていくか、継続していくかが課題。</p>
<p>持続可能な地域づくりや地域内資源循環に連動した、人材育成プログラムの実施や雇用が生まれる機会を提供しているか</p>	<p>始まっている。</p>	<p>長野県二団体では、自然資源を活用した物品や、食にフォーカスした商品開発などが行われており、事業化への道筋がみえていると判断する。</p> <p>山梨県では、具体的な試みにはまだ着手できていないが、長野県 2 団体の先行事例を参考にしながら、事業進捗に合わせ、資源循環のしくみを考え、そこでの人材育成、雇用創出に取り組めると考える。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>実行団体の進捗には、外的要因もあり、差がでていますが、中間評価において、事業の振り返り行い、内容、実施スケジュール、運営体制の再確認、必要な見直しを行った。その結果、実施プロセスがアウトカムに連動するように、事業設計の改善を行った。資金分配団体としても、短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みである。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	実行団体による活動は、適切な伴走支援によって計画通り実施されているか	概ねできている	団体個々に進捗の度合いはあるが、事業改善への課題は実行団体内部で確認されており、必要な伴走支援を実施し、事業設計の改善計画はたてられている。4 団体についてはおおむね計画通り実施されている。
	多様なステークホルダーとの連携が進み、地域での関係者や支援者の意識が変化しているか	変化はみえている	それぞれの事業における多様な連携が拡大し、事業における直接的な関係者、対象者へ届いており、変化が見える。もう一つ外側、最終対象者に関わる関係者、最終受益者へのアプローチが今後の課題となる。  山梨県内では、休眠預金事業への理解や認知は進みつつあるが、実行団体側が、いつ、何を、どのように支援してほしいのか、協力してほしいのか、具体的な提案をするにいたっていない。実行団体は作成したロジックモデルなどを活用して、地域の関係者や支援者の意識に、踏み込んだ支援や協力までを呼び込むところまで変化させることができるかが課題。

実施をとおした活動の改善、知見の共有	設定された目標の達成に向けて、事業設計の見直し、阻害要因の解消への取り組み、改善は行われているか	行われている。	定期、随時のミーティングでふりかえり、改善を行っている。  評価アドバイザーからの指導、助言、POと時間をかけ、アウトカム、アウトプット、その活動項目のそれぞれの検証、検討、現状、課題、阻害要因などの洗い出し、検討、議論を行い、適切に改善が行われた。
	資金分配団体、実行団体相互に、活動へ得た学びや知見を共有できているか、ノウハウなど地域に広く共有、蓄積できるように働きかけているか	行われている。	各団体の相互交流、情報の共有、成果（作成資料）の共有、クラウドでの共有、POを通じた活動事例共有が実施されている。 ノウハウ・知見の共有は、資金分配団体、実行団体内から、さらに地域の他団体、ネットワークとの共有を促進し、地域連携のメリットとする。
組織基盤強化・環境整備	実行団体の組織体制・運営体制は伴走支援によって適切に整えられたか、改善されたか	改善されつつある。	担当PO、専門家を仲介するなどして、適宜、必要に応じて、団体の要請に応じて、整えられつつある。運営体制については、助言、一緒に考え、改善している。
	実行団体の活動、資金分配団体の働きかけにより、地域の環境（人の意識や組織の取り組みや機能）に変化がみられるか	変化は少しずつだが、着実に起きている。	県内シンクタンクが主宰する課題解決プログラムとの連携、休眠預金を活用した活動事例紹介、社会教育提言書での事例紹介、事例発表パネルの展示など、機会を捉えて働きかけを行っている。事項団体の活動の活発化に伴い、周囲がメディアや口コミで目にする、耳にする機会が増え、ゆっくりであるが、変化がおきている。

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

各担当 PO と実行団体との定期的な MTG を通じて、信頼関係を気づき、事業に係るよいことも悪いこと（課題）も、気兼ねなく相談できる、話すことができる関係になっている。両県の事情に通じ、公益市民活動の知見が広い、統括 PO の指導により。実行団体の活動の言語化、可視化ができるようになり、実行団体の活動がアウトカムと連動していくプロセスの理解ができ、実行団体での担当者がそれぞれ、自信を持って活動に取り組めていること。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

想定外といえるほどの効果は確認できていない。



## ④ 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する</p>	<p>実行団体の事業改善は実施され、概ね目標値の達成がみえている。この事業は、実行団体の活動の総和＝事項団体の活動が有機的に結びつき、包括的な地域の変化を起こすことを目標にしており、再度 TOC の見直し、事業設計の確認を定期的に行う必要があると考える。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

実行団体が、まだ見えていない、活用できていない地域資源の調査と活用への助言  
つながっていないステークホルダーとのマッチング  
地域のより多くの認知、協力を促進する広報戦略の策定、事業推進に役立つ研修会の実施

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）